

# Mランドニュース Vol.143

## 丹波ささ山校 平成31年2月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569  
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹  
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 今月の言葉

どちらにしようかと迷ったとき、「いやだな」、「やりたくない」と思った方を選びなさい。

小河二郎前会長のことば

ごあいさつ



代表取締役会長

小河 吉彦

この度、新しくMランド丹波ささ山校の一員として迎えていただきましたこと、大変嬉しく思います。

誠に微力ではございますが、篠山市の皆様と社会のお役に立てるよう、社業発展に努めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新年も早いもので一か月が経ちました。皆様それぞれ新年に掲げた目標、想いに向かい、着実に歩みを進めておられるでしょうか。創業者 小河二郎は留まることを良しとせず、常に前進あるのみの姿勢を貫いてきた人でありました。

先月二十六日にはMランド益田校において、社葬「故

小河二郎を偲ぶ「燦の会」を執り行いました。

荒廃した段々畑と山でしかなかった地に創り上げてきたMランド。全体が一望できる無心山頂上から、亡き創業者の燦の心を感じ、小河前会長の生き様から継承すべき我々の使命を再確認することができました。

小河前会長を一言で表現すると、私は「考える人」であったと思います。四十歳で創業し、未来ある若者のためにMランドはどうあるべきなのか、人生最後の一呼吸まで、とことん考え続けてこられました。息を引き取られる最後の最後まで、私の手を握り、口を大きく開け、私に何かを伝えようとしてくださいました。最後は声を出すことすらできませんでしたので、私に何を言いたかったのかわかりませんでした。最後まで懸命に生きました。命尽きるまで、生きることへの姿勢や態度、仕事と向き合う姿勢や態度を教えてくださいたいのではないかと感じていました。

小河前会長は、Mランド丹波ささ山校が大好きでし

た。Mランドとして再出発してから十三年。「千人で大それうじ」をはじめ、市民の皆様や多くの方々を支えていた大きながら、篠山の街、市民の皆様にご喜んでいただける会社として、少しずつ成長させていただきました。

十三年前に小河前会長と井階社長が誓った理想の現に向かつて、着実に歩みを進めているのではないのでしょうか。これからも留まることなく、未来ある若者のために喜ばれることを実行し、篠山市の皆様にご愛され続ける百年企業を目指し、走り続けてまいります。

最後になりますが、社員の皆様、ご家族の皆様、そしてMランド丹波ささ山校とご縁あるすべての皆様、未熟者の私にどうぞお力添えくださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

感謝

### 「燦」の会

一月二十六日(土)、昨年十一月に亡くなられた、小河二郎前会長の「故 小河二郎を偲ぶ燦の会」が、島根県

益田市Mランド益田校「無心山」において、全国各地からご親交があった方々がお集まりになり、時おり小雪の舞う中執り行われました。ご参列には篠山市を代表し平野副市長様。兵庫県教習所協会を代表し黒田専務理事様にもお越しいただきました。

式に先立ち、一般参列者の方々はコスモサロンにて、茶道の中に礼儀、礼節、思いやりの心を重んじてこられた小河前会長と最後のお茶、「献茶」をされ、思い出を偲ばれていました。

山の中腹に三百名が裕に入る特設会場の正面に、益田校の社員たちが心を込めて作られた、亡き小河二郎前会長の遺影が安置されています。



業種に関わらず、多くの

方々にご親交をお持ちでしたので、著名な方々が一堂に会しておられ、弔辞では島根県知事 溝口様など、小河前会長への思い出話をされ、参列者の方々は我がことのように静かに聞き入っておられました。

また、「燦の誓い」として、社員を代表し誓いのことを述べ、全員で献花をし、小河前会長にお別れをいたしました。

印象的であったのが、会場となった広大な敷地の益田校。入口から会場へ遠々と続く道を、来場者を安全、円滑に整然と誘導する統率された社員たちの姿に、小河前会長が創り上げてこられた一端をみるようでした。「小河二郎」という人は、今はもういらっしゃいませんが、その志は「燦の心」として、Mランド社員の胸に深く刻まれています。今後も益田校とともに、私たち丹波ささ山校も更に発展してまいります。



益田校無心山「燦の塔」

## お餅つき

夢チーム 前川 昂希

一月五日(土)、Mランドの新春を迎える恒例の「お餅つき」を、ゲストの皆さまと一緒に行いました。

時代の変化とともに、伝統的な行事に接する機会が減っていく中、少しでも「お正月」を感じていただきたいと考え、毎年行なっています。

教習所にも思いもよらない白と杵が準備されると、「何が始まるの?」といった表情で皆さま一瞥になられます。

湯気が立ち込め、もち米が蒸しあがると、勉強に勤しんでおられるゲストをお誘いして、順番にお餅をついていただきます。



お母さんが見守る中、初体験!

ほとんどのゲストはお餅つ

き初体験で腰がよるめき杵はフラフラで、杓が定まりませんが、楽しまれてるのは間違いないようでした。

つき終わつた後は、ロビーで一緒にお餅を丸め、さとう醤油ときな粉で味付けした、つき立てのお餅をサプライズ。最初は驚いたようすでしたが、皆さんにおすすめすると、美味しそうに召し上がっておられました。



さて、上手く丸められるかな?

この日、三田市から通学されている上田様が卒業検定とあって、奥様とお子様がお父さんの応援にお越しになっており、ご家族で参加していただきました。

お子様は、すっかりお兄さんやお姉さんと仲良しになり、お帰りの際には「ハイタッチ!」。「免許のときは篠山にきます!」と元気な声でMランドをあとにされ、私も嬉しい気持ちとなりました。

## 「研 鑽」

副管理者 永見 倫幸

丹波ささ山校では、インストラクターを五つの教習チームに分け、ゲストを担当しています。

同じ教習をしているのですが、各インストラクターの言い回しや思い違いにより、お客さまにご迷惑をおかけすることもあります。

そこで私たちは定期的に研修会を開き、チーム毎に意見を出し合い、いただいた問題を解決し、全インストラクターで情報を共有しています。



すべてはゲストのために

私たちは、免許取得はもちろん、これからの人生に役立つ「もの」を、ゲストに持つて帰っていただきたいという

## 社会勉強!

京都大学文学部

鈴木 かな様

想いを持っていますが、まずは私たちインストラクターの基本である教習がしっかりしていなければ、それ以上の事はできません。今回の研修会も、ゲストのためになる教習を本気で考え、意見を出し合い、お互いの考えを理解し合える良いコミュニケーションの場となりました。

これからは「交通事故ゼロ」を目指し精進していきます。

一月二十日(日)に、南勝インストラクターにお話しを聞かせていただきました。

私は社会学を専攻しており、インタビュー調査の課題が出ていたことと、私自身が四月から自動車会社に就職することもあり、何か伺えたらと思っておりました。

そんな折に、ブラジルの方と南勝インストラクターが、ポルトガル語でコミュニケーションを取っているのを見て、興味を持ち、事情を説明させていただいたところ、快諾し



「良い時間をいただきました」と、南勝INS

ていただきました。インタビューを通して特に印象に残ったのは、常に試行錯誤を繰り返して改善を続ける姿勢でした。

それは、技能教習における細かなルールの改定や、外国籍のゲストの増加を受けて作成した、教習でよく使う言葉の「外国語の単語表」など、幾つものお話しの中から、その姿勢を感じることが出来ました。

そして、より良い教習所を目指すその姿勢の根源には、ゲストの成長をやりがいを感じ、その成長は、ひいてはドライバーとしての成長であり、最終的には交通安全に繋がるといふ考えを伺うことが出来ました。

織としての大きな強みだと感じると共に、何よりも、もうすぐ社会人になる者として、またドライバーになる者として、身が引き締まる思いでした。

四十分の貴重な時間を割いてインタビューさせていただいた南勝インストラクターや、熱心に教習を指導して下さったインストラクターの皆さん、ホーム生活をサポートしてくださったスタッフのおかげで、大変充実した合宿生活を過ごさせていただけました。

本当にありがとうございました。

## 編集後記

一月二十六日の「故 小河二郎を偲ぶ燦の会」に行かせていただき、小河二郎前会長がいかに多くの方々には大きな影響を与えておられたのかを伺い知ることができました。また、同じように丹波ささ山校にも、小河前会長の「志」が、ことばやかたちとなって生きつづいています。

生成発展させていくことが私たちの使命です。(徹)